



## 女性部役員とJ A 役職員24人が参加 宮城県・女川町で炊出し支援を実施

J A 鶴岡では10月1日、役員と女性部役員の計24人が宮城県女川町を訪れ、避難所と仮設住宅で暮らす被災者に炊出し支援活動を実施しました。東日本大震災後にJ A 鶴岡が炊出しを行なったのは、3月に続いて2回目。

振舞ったのは庄内風芋煮汁とだちや豆ごはん500食。加えて、子ども向けの綿菓子コーナーを設置したほか、屋内で栽培・鑑賞してもらうベビーレタスの栽培キットを希望者へ配布しました。

女川町は大津波の直撃を受け、市街地のほとんどが壊滅状態となりました。現地で暮らす多くの人達が家族や知り合いの命を奪われ、今もお文化的とは言い難い避難所やキャンプ生活を強いられています。

震災から半年以上が経過し、関連する報道も減り始めていますが、現地ではまだ復興の糸口さえ見えない地域や人々が数多く存在します。

J A 鶴岡では、山大農学部・現地J Aとの連携を図りながら、今後も継続して現地に寄り添い、支援活動に取り組めます。



【写真左】農業まつりなどおなじみの大鍋を使用して芋煮汁を調理。鍋を持ち込む被災者にも対応しました。野菜の切り込みは、前日に女性部役員が行ないました。

【写真上】だだちや豆おにぎりは当日の早朝にパンハウス庄内で炊飯されたもの。芋煮同様、鶴岡らしさのある炊出しメニューとなりました。

J A 鶴岡復興支援プロジェクト 第8回活動報告



J A 鶴岡、山大農学部、現地の J A 関係者ら総勢 40 人での活動になりました。あの人やこの人も。



【写真左上】仮設住宅の屋内で鑑賞・栽培してもらおうと山大農学部が企画した『ベビーレタス栽培キット』を希望者に配布しました。

【写真左下】綿菓子コーナーも設置。朝から子どもたちの歓声が響きました。

【写真上】女性部からも6名参加いただきました。